

新工法の調査・普及の現状報告

令和6年9月26日

建設部リニア都市計画局建築住宅課



恵那市公式キャラクター エーナ

3. 新工法の調査・普及の現状報告

安価な耐震化工法の調査現状報告

9/13(金)10時

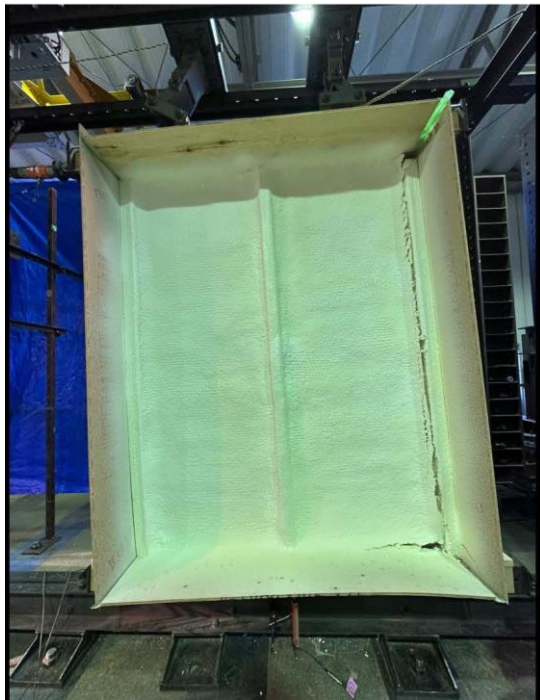
名古屋工業大学 北川啓介教授打合せ



インスタントハウス

3. 新工法の調査・普及の現状報告

安価な耐震化工法の調査現状報告



試験体

インスタントハウスの技術を
耐震改修に応用



ウレタンを吹き付けた壁を
耐震診断で壁基準耐力 2.7kN/m
とみなすための実験を実施



年内に日本建築防災協会の認定
が取れる予定

3. 新工法の調査・普及の現状報告

安価な耐震化工法の調査現状報告

耐震改修のすすむ高知県黒潮町の取り組み

高知県では、木造住宅の耐震改修が大きく進み、知事が「死者数を限りなくゼロに」と発言するなど、耐震改修を積極的に進めています。その高知県の中で、最も注目されているのが黒潮町です。黒潮町では平成27年から耐震改修工事が急増しており、平成30年度には名古屋市（人口230万人）の85件を上回る154件の耐震改修工事が行われました。人口1万1千人あまりの町でこれだけの耐震改修工事が進んでいるのはなぜか。その理由をみてみると、行政（高知県、黒潮町）の積極的な取り組みとともに、大工・建築士が大きな役割を担っていることがあげられます。

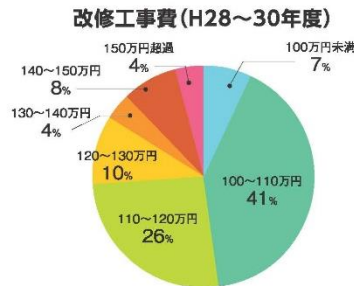
第1に、黒潮町や四万十市の建築士が、**安価な耐震改修工法を学び、精密診断による合理的な設計と合板による安価な工法を採用することによって、安価に工事ができる設計を大工に供給していることです。**

第2に、地元の大工が建築士の指導の下、**安価な耐震改修工法による施工を学び、補助金内で工事を実施するように努力していることです。**

さらに、黒潮町は南海トラフの巨大地震が発生した場合、大きな津波が押し寄せると予測されていますが、そのような地震が来ても人が死なないように地区ごとで防災まちづくりの取り組みが進められており、さらに、臨時職員が各住宅を回って耐震改修を勧める取り組みが実施されています。そこで多くの人が、「地震が来ても家が壊れると、津波が来ても逃げられない!」とか、「家が壊れて避難路を塞いではいかん!」という気持ちで、耐震改修に立ち上がっています。

この時、設計費30万円、工事費110万円の補助制度によって、ほとんど、**屋主の金銭的な負担なしに実施**できること、地元の**信頼できる大工が、安価な耐震改修の工事を実施**してくれるということの2点が、所有者にとって、大きな安心につながっています。

黒潮町の出口地区では、地区に住む大工が耐震改修に取り組むようになって大きく耐震改修が進み、今年度中には耐震改修の必要な家屋の7~8割は耐震改修工事が完了する見込みで、爆発的に耐震改修がすすみ、地域全体の安全性が高まっています。



高知県黒潮町の取り組み

- ・H28~30年度
改修工事費の84%が
140万円以下
- ・合理的な改修設計
精密診断、N値計算
- ・耐震改修専用の安価な工法
天井や床を解体せずに、
天井から床の間で構造用
合板を使い補強



名古屋工業大学
高度防災工学研究センター



3. 新工法の調査・普及の現状報告



3. 新工法の調査・普及の現状報告



3. 新工法の調査・普及の現状報告

